オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(50)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(50)－

１．始めに

前報(49)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

ドイツグラモフォン　2543 508

モーツアルト　ピアノ協奏曲 21 番ハ長調

ピアノ協奏曲 27 番変ロ長調

フリードリッヒ・グルダ（ピアノ）

クラウディオ・アバド指揮ウイーンフィル

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

ピアノ協奏曲 21 番は前報(49)と同じ曲ですが、前報(49)のものは日本ポリドール製、今回のものはポリドールのオリジナル盤です。クレジットによれば、マスターも違うようです。グルダのピアノも、アバド指揮ウイーンフィルの演奏も前報(49)と同様の印象ですが、今回の方が、音が緻密かつ自然で強調感がなく、グルダのフレージングの取り方がより分かりやすいです。

ピアノ協奏曲 27 番は、これもモーツアルトのピアノ協奏曲の定番の一つですが、ピアノ協奏曲 21 番ならびに前報(49)の 20 番と同様、グルダのピアノも、アバド指

揮ウイーンフィルの演奏も、音が緻密かつ自然で強調感がなく、曲の表情が採りやすくなっています。

３．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、グルダのピアノも、アバド指揮ウイーンフィルも演奏の様子が的確に捉えられますが、同じレーベルでも前報(49)との音の違いが分かります。

以上